



みんなに聞いてみよう！ 自分らしく生きるために

～被害者にも加害者にもならないように、
セクハラとデートDVについて考えよう～

TuLiP (大垣女短ジェンダーについて考えるサークル)



<はじめに>

このリーフレットは、TuLiP (大垣女短ジェンダーについて考えるサークル) が、付き合っている関係におけるDVである「デートDV」と「セクハラ」について、自分たちと同じ世代の人々の考えを知るために実施したアンケート調査の結果をまとめたものです。この結果と共に、私たちがアンケートの作成や実施を通して考え、話し合った内容についても、同世代のみなさんにお伝えしたいと思います。

なお、当事業は令和3年度大垣市男女共同参画センター登録団体提案事業に応募し、事業採択されて実施したものです。

<TuLiPについて>

TuLiP(大垣女短ジェンダーについて考えるサークル)は、社会で起こっているジェンダーに関する問題についてみんなで自由に話し合う場です。令和3年度はこの提案事業に取り組み、皆で検討を重ねながら進めました。私たちにとって身近なジェンダーのテーマについて考え、相手も自分も大切にできる社会作りの一歩として情報発信することを目的に活動しています。

<アンケートの内容について>

アンケート項目の作成にあたって私たちが大切にしていたことが2つあります。1つ目はセクハラやデートDVについての知識を問うものではなく、「各自が不快だと感じるラインを明らかにすること」です。そのため、人によって受け取り方が異なるような具体的な場面を皆で考えて出し合いました。

2つ目は、「自分が加害者にならないために気を付けるべきことを知りたい」ということです。一般的にセクハラやDVは女性が被害者だと捉えられがちですが、私たち女性も男性に対する無意識な言動によって加害者になっているかもしれません。そうならないために、男性からみてセクハラやデートDVになりそうな場面も考え、項目を決定しました。

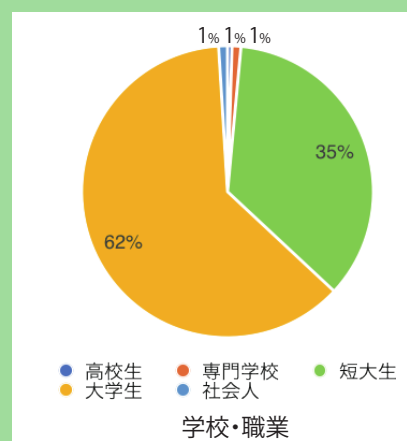
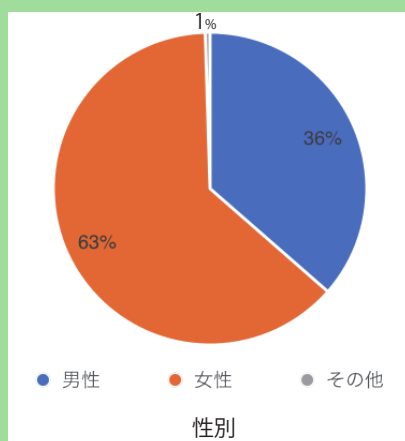
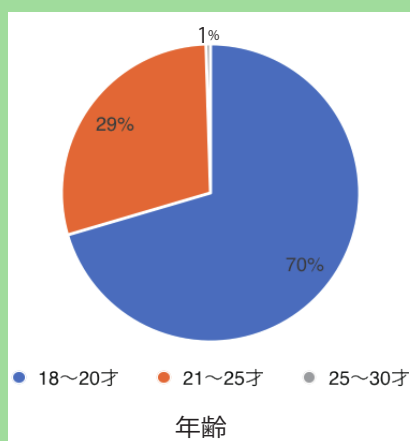
<アンケート実施方法>

アンケート調査は令和4年1月～2月にGoogleフォームで実施し、大学からの呼びかけに応じて回答を寄せてくれた大垣女子短期大学と岐阜協立大学の学生、広報おがきでの募集(18～30歳の未婚の方を対象)に応じて回答してくださった市民の方々の計203名の参加がありました。ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。

なお、アンケートの結果はジェンダー統計の視点から、男女の意識の違いを比較する形でまとめました。

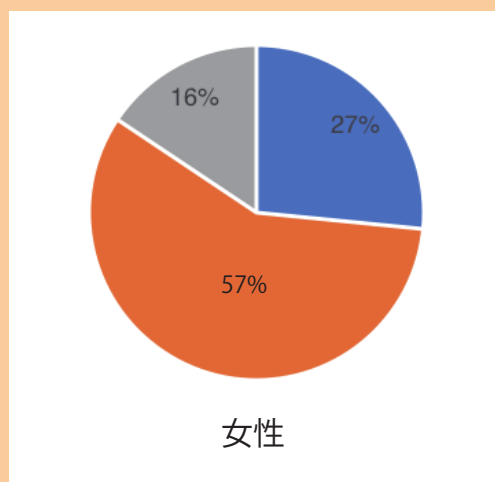
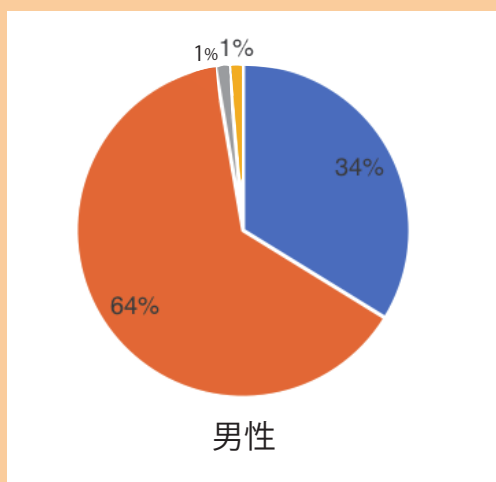
★ジェンダー統計とは

…男女間の意識による偏り・格差・差別の現状や、それらの要因・影響について、客観的に把握するための統計



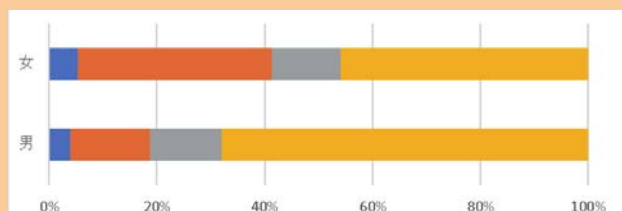
セクハラについて理解している方だと思いますか？

セクハラについての理解度を調査したところ、女性よりも男性の方が「理解していると思う・どちらかという理解していると思う」という内容の回答が多いという結果でした。一般的にセクハラというと女性が被害者、男性が加害者だと捉えられる機会が多いため、日頃から意識したり気をつけたりしている男性が多いのではないかと思います。

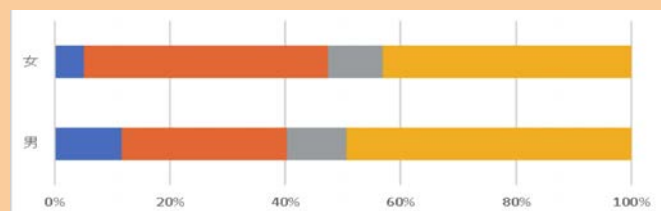


■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない

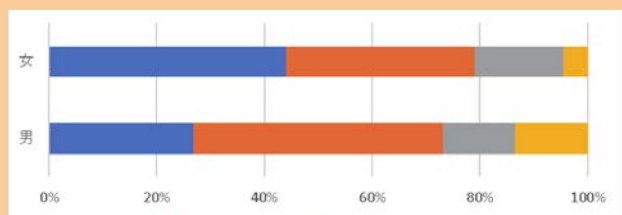
次に、具体的な項目への回答をお示します。相手に対して「性別についての固定観念やイメージ（ジェンダースtereotype）」をもとにして人の行動を制限する発言や態度のことを「ジェンダーハラスメント」といいますが、これに当たるような発言を、男性・女性はそれぞれどう感じているのでしょうか。



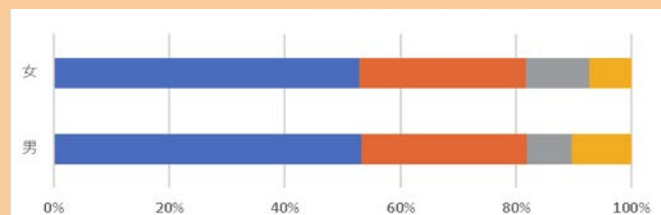
Q1 (男性に)最近かっこよくなったね



Q2 (女性に)最近きれいになったね



Q3(男性に)そんな荷物も運べないじゃモテないよ



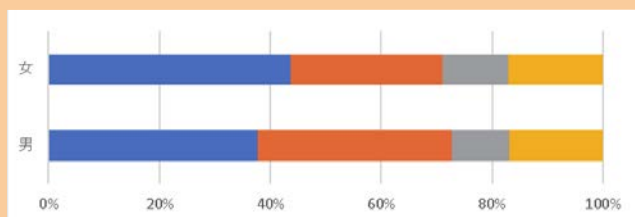
Q4(女性に)料理ぐらいできないと彼氏もできないよ

■ どんな状況でも嫌だ ■ 相手によっては嫌だ ■ 回数によっては嫌だ ■ 嫌ではない

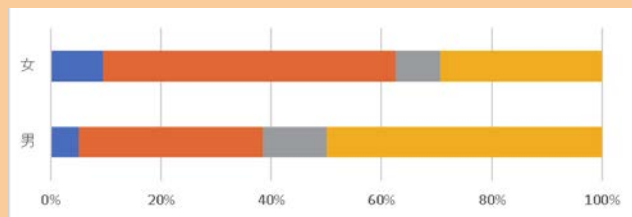
Q1では男性と女性の回答に違いがあり、女性は「『かっこよくなったね』という言葉も相手によっては嫌なのではないか」と感じるようですが、男性の「嫌ではない」という回答は半数以上でした。一方、Q2の結果から女性は「『きれいになったね』という言葉も言われる相手によっては嫌だ」と感じる人が多く、女性にとっては「何を言われるか」よりも、その言葉言う相手との関係性がセクハラになるかどうかを決めているようです。

Q3は、男女とも不快に感じる回答が多くなっています。特に男性で「相手によっては嫌だ」という回答が女性よりも多く、この結果からも相手との関係性が言われた側の不快感に影響を及ぼすことがわかります。Q4については男女ほぼ同じ回答傾向でした。

これらの結果から、相手にとってセクハラだと感じる発言をしないためには、男女による認識の違いを知るとともに、相手と自分との信頼関係や親密度などの関係性をよく考えることが大切だということですね。(次頁に続く)

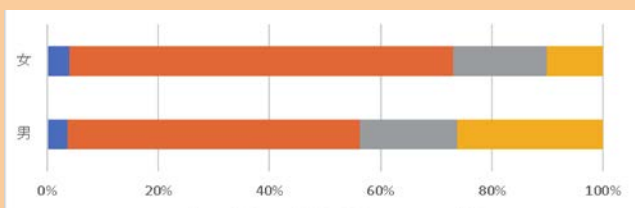


Q5(女性に)女性がいれてくれるお茶はおいしいなあ

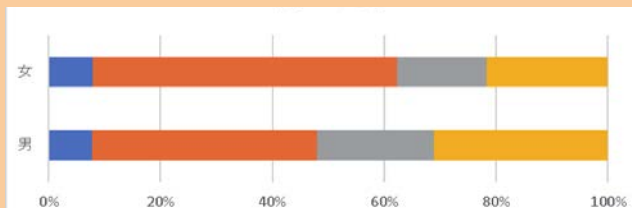


Q6(異性に)その服いいねえ、好みだわ

Q5は男性と女性の回答の割合がほぼ同じで、「どんな状況でも嫌だ」と思う人も多いようでした。一方、Q6の服装を褒められる言葉は、男性の大半は「嫌ではない」と答えています。男女の違いについてみると、女性の回答で「相手によっては嫌だ」という割合が特に多く、ここでも相手との関係性が重要になってくるようです。

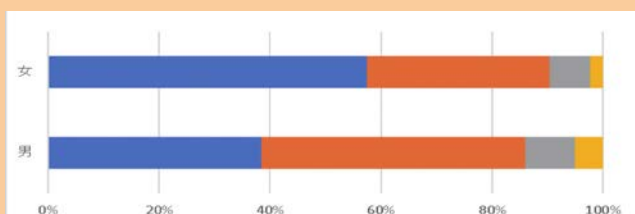


Q7(異性に)今日は二人でご飯いかない？

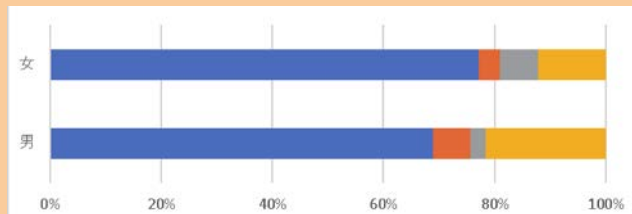


Q8「付き合ってる人いるの？」と聞かれる

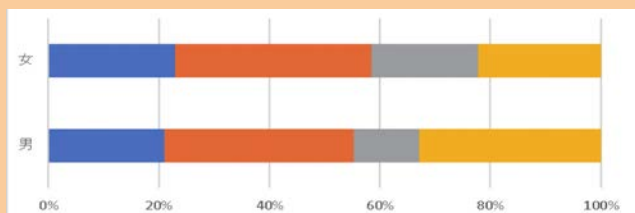
Q7のご飯への誘いは、「相手によっては嫌だ」という回答が男女ともに圧倒的に多く、同じような傾向がQ8の付き合っている人の有無を尋ねる項目でも示されており、気軽な声かけや質問も、相手と自分との距離や関係をよく考えて口にすることが大切なようです。また、ちょっとしたスキンシップであるQ9についても、男女ともに嫌だと感じる回答が多くなっています。男性は「相手によっては嫌だ」という回答が多く、親しい間柄であれば良いのではないかという気もしますが、女性の回答は「どんな状況でも嫌だ」が半数以上を占めており、同意のないスキンシップは避けた方がよいでしょう。



Q9挨拶や声かけの時に身体をさわってくる



Q10 電車の中で携帯でわいせつな動画を観ている



Q11 学校や職場に露出の多い服を着てくる

■ どんな状況でも嫌だ
 ■ 相手によっては嫌だ
■ 回数によっては嫌だ
 ■ 嫌ではない

Q10、11のいずれの行動も他人に直接的に影響を及ぼす行動ではないように思えるかもしれませんが、しかし、不快に感じる人が男女ほぼ同じ割合で居ることが示されています。Q11については露出の多い服を着てくるのが同性なのか異性なのかまでは聞いていないので、同性に対して不快感を与えている可能性も考えられます。このような行動についても、周囲に対するセクハラにならないよう注意する必要があることがわかりますね。

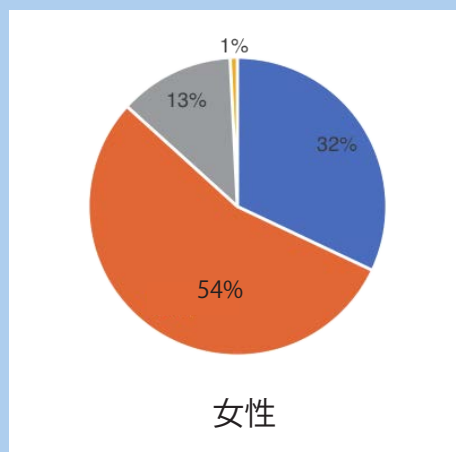
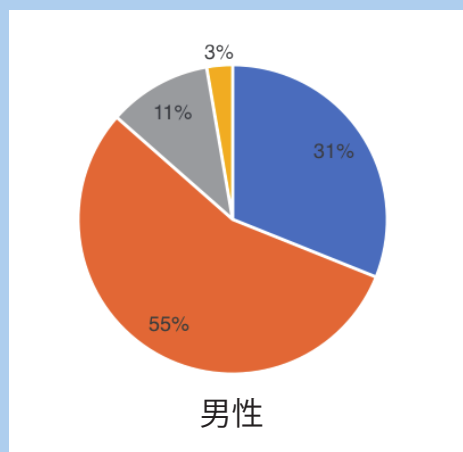
＜本事業のアドバイザー(NPO法人あゆみだした女性と子どもの会理事長 廣瀬直美さん)からのコメント＞

アンケート結果全体から、人々が無意識のうちに抱えているジェンダーバイアスがまだまだ根付いていると思います。「男女それぞれの回答のこの微妙な差異は何だろう?」「セクハラを理解している男性が多いようだけどなぜ被害は減らないの?」「この回答の裏側にあるジェンダーバイアスはどうなもの?」など疑問が湧きます。皆さんには様々な角度から想像し考えてほしいです。考えること・知ることによって「デートDVとセクハラ」は、他人事ではなく自分自身にも起こりうることであり、実は根が深い社会問題でもあることに気づいてほしいと思います。多くの人がハラスメントの被害により声を上げられず、自分らしく生きることが奪われています。若い世代がこのテーマを考え活動することは、自分を大切にでき、「誰もが対等で生きやすい社会」を作る大きな原動力となるはずですよ。最後に皆さんへ、「つらい気持ちは誰かに話してみてください。あなたは誰からも支配されることなく、一人の人として尊重され生きる権利があります」



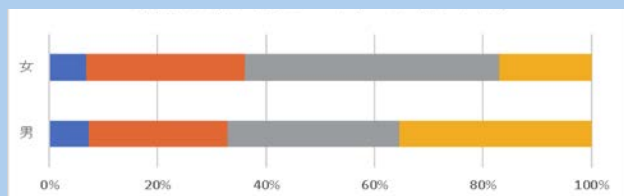
デートDVについて理解している方だと思いますか？

付き合っている相手との関係で起こるデートDVについての理解度を尋ねたところ、男女ほぼ同じ割合の回答となり、8割以上の人が理解している方だと答えていました。社会的にも、DV被害などが報道されるなど事件として取り上げられることが多くなっているため、理解も進んでいる様子がうかがえました。

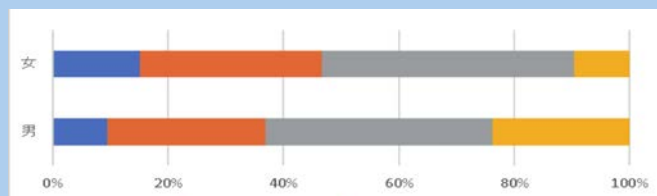


■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない

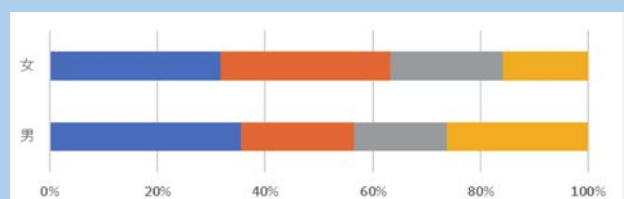
DV(ドメスティック・バイオレンス)というと身体的な暴力を振るわれるというイメージがあると思いますが、その他にも「精神的暴力」「社会的暴力」「性的暴力」「経済的暴力」などの様々なタイプがあり、DVだと認識しにくいものもあります。今回の調査では、様々な角度からDVにつながるような場面について尋ね、どのように感じるかを答えてもらいました。



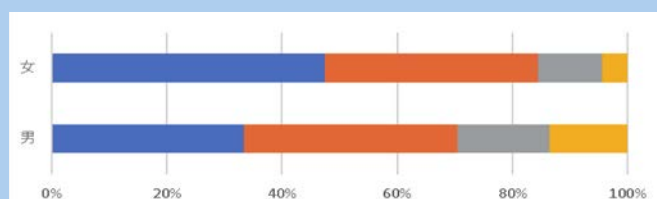
Q1 今日どこ行くの？明日は誰と遊ぶの？と聞かれる



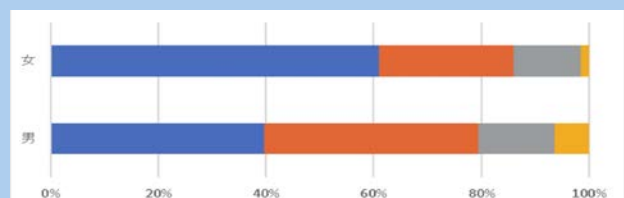
Q2 今の電話誰から？誰とラインしてるの？と聞かれる



Q3 電話やラインなどの連絡を毎日してほしいと言われる



Q4 付き合っているなら一緒にいるのが当たり前と言われる

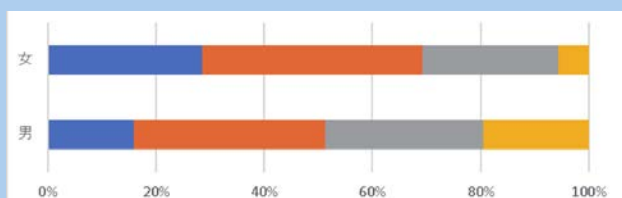


Q5 相手の予定を優先しないと機嫌が悪くなる

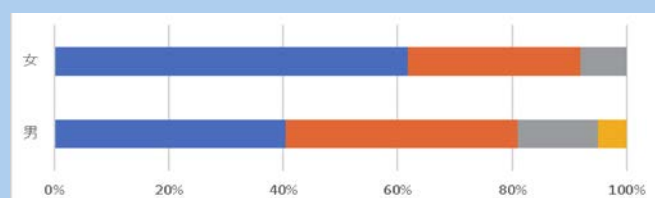
■ どんな状況でも嫌だ ■ 相手によっては嫌だ
■ 回数によっては嫌だ ■ 嫌ではない

Q3、Q4のように相手の行動を左右するような要求に対しては、男女ともに嫌だと感じる人が多くなっています。自分の意志ではなく相手に強要されてこのようなことを行うのだとしたら、対等な関係とは言えなくなってしまいますよね。

これらもまた、相手の行動を制限するという形の「社会的暴力」につながるものです。Q5のような状況の場合、相手の機嫌を損ねることを恐れて、自分の予定を変えて相手に合わせてしまうことになりがちです。この項目は男性よりも女性の方が「どんな状況でも嫌だ」という回答が多くなっています。



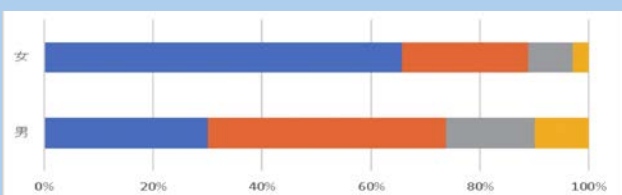
Q6こっちの方が似合うと自分の好みにさせたがる



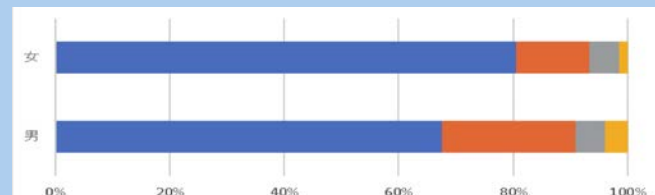
Q7「お前（あなた）のために言うんだ」と自分の意見を通す

Q6、Q7の内容は相手のためを思っていることのようにですが、言われている本人の思いと食い違っている場合には価値観の押し付けになってしまいます。これは相手の発言権を奪う、価値観を尊重しないという形の「精神的暴力」につながるもので、度が過ぎると相手を支配する・されるという関係が生まれてしまいます。これらの項目では、男性よりも女性の方で嫌だという傾向の回答が多く、特にQ7では「どんな状況でも嫌だ」という女性が半数以上となっています。男女によって感じ方に違いがあることも、この結果から読み取ることができますね。

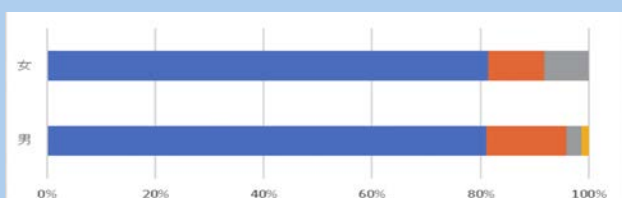
また、Q8のような状況だと相手の意見と異なることを言えずに我慢してしまうことが続き、これが様々な場面に及んでしまうと「性的暴力」の一つである「性行為の強要」を引き起こすことにもなりかねません。この項目についても男女での感じ方が大きく異なり、男性では「相手によっては嫌だ」が一番多いのに対し、女性では「どんな状況でも嫌だ」が6割以上を占めています。



Q8相手と異なる意見を言うと嫌な顔をされる



Q9 人前で馬鹿にされたりけなされたりする



Q10 機嫌が悪い時に物に当たる

■ どんな状況でも嫌だ
 ■ 相手によっては嫌だ
■ 回数によっては嫌だ
 ■ 嫌ではない

これらの内容になると、男女とも大半が嫌だという傾向の回答をしています。Q9の内容は「精神的暴力」にあたり、直接身体に触れることはなくても相手の心に傷を負わせることとなります。また、Q10のように物に当たるという行為は、人前で暴力を振るうことへのハードルの低さをうかがわせるものなので、注意が必要です。

Q1～Q10で尋ねた項目の内容は、状況次第ではデートDVが疑われるものです。嫌だと感じる人の割合も性別によって違うため、自分と異なる性別の考え方を意識し、相手の立場に立って自分自身の行動を振り返ってみると良いと思います。自分の何気ない言動が相手にとってのDVになっていないか、あらためて考えてみてほしいです。

<サークル顧問（大垣女子短期大学 茂木七香教授）からのコメント>

このアンケートは結果を知ることが第一の目的ではありませんでしたが、私たちの中には「アンケートに答えることで、これもセクハラやデートDVなのだと気づいてほしい」という思いもありました。セクハラやデートDVは「理解しているか」と問われると社会的望ましさから「はい」と答えがちなテーマです。知識や理解を質問紙で尋ねると模範的的回答になってしまうことが予測されたため、何をどのように聞くかという点について、多くの時間をかけて議論しました。その結果「嫌だと思う」という個人の感覚を問うこの形になり、男女の感じ方の違いを捉える良いデータが得られたと思います。

セクハラやデートDVについて経験したり身近で体験したりしたことがあるかを尋ねると、「はい」という回答はセクハラ14.8%、デートDV3.9%といずれも少ないです。しかし、これらの経験は不快なものなので、自分が傷つくことや否定されることを恐れて「考えすぎだろう」「よくある事かも」などと否認する思考が働いてしまい、経験そのものが当事者に認識されていない場合もあり、この数値が全てではないと思います。項目の多くはグレーゾーンではあるものの、セクハラやデートDVにつながる可能性のある内容なので、これらを見て自分自身を振り返ってみてほしいです。

本事業のように、学生たちのような若い世代の人たちがこのテーマについて当事者として考え、社会に向けて意見を発信できる場を、これからも一緒に作っていきたいです。



「セクハラ」…経験がある 14.8%

- ・バイト先の店長に性的な質問をされた
- ・露出の多い服が似合うと言われた
- ・男のくせにと露骨に悪口を言われた
- ・女だからと手伝いをさせられた
- ・身体を触られた(複数回答)

体験談

「デートDV」…経験がある 3.9%

- ・ラインの内容を見せないと怒られた
- ・ラインの返信が遅いと不機嫌。いつもどこに誰と居るのか連絡の要求してくる
- ・お前はバカだと暴言、怒ると口を利かなくなる、物に当たるなど精神的な暴力

このような体験をした時に、すぐに誰かに相談したという人はあまり多くありません。相談できなかった理由として、以下のような内容が挙げられていました。

「相談しづらいから」「その時は自分が悪いと思っていた」「相談しても解決しないから」「家族に相談したかったけど心配させるのが嫌でできなかった」「みんなそれが普通だと思っていて言っても仕方がない」「自分の勘違いかもしれないから」

セクハラやデートDVなどの被害を受けた時、もしかしてそうなのかも、と思ったただけだったとしても、1人で抱えているのはつらいものです。以下の相談先に、ぜひ連絡してみてください。

●DV相談ナビ #8008 (はれれば)

●DV相談プラス TEL 0120-279-889

●大垣市社会福祉課【DV等に関する女性相談】

●ハートリンクおおがき【女性の悩み相談】

毎週月～金曜日 9～16時(祝日を除く)

TEL 0584-81-4111(内線2470)

毎週水・金・土曜日 9～16時受付(休館日を除く)

相談TEL 0584-47-7188

<調査結果へのコメント(サークル以外の人から)>

アンケート結果をサークルのメンバー以外の人に見てもらったところ、次のようなコメントが寄せられました。

「何気ない言い方でも相手にはセクハラとして伝わってしまうとわかったので言葉に気を付けようと思った」「セクハラやデートDVで『経験がある』と答えた人が少ないのは、抱え込んでしまい相談できる環境がないからだと思った。」「『状況によっては嫌だ』という回答がたくさんあったが、どういう状況なら嫌なのかわからないので、自分は大丈夫かと気になった。」

アンケートの結果を見ることでセクハラやデートDVというテーマを身近に感じ、自分自身のことを振り返ってもらう機会にもなったようでした。

<私たちからみなさんに伝えたいこと>

この1年間、メンバーとの話し合いや調査項目の作成、結果のまとめを通して、このテーマについて様々な視点から考えました。調査結果から明らかとなった男女の考え方や認識の違いが、セクハラやデートDVに繋がっていくのではないかと感じます。相手ともっと話し合い、お互いのことを尊重し合って歩み寄れると良いと思います。

ここまで読んでくださったみなさんも、性別によって質問項目への感じ方に違いがあることを理解していただけたと思います。自分が「嫌だ」と感じる気持ちが調査結果と同じで、自分の感覚は間違っていないのだと安心した方もいるでしょう。不快に思うことは人それぞれです。あなたが嫌だと思ったことは我慢せず、声を上げて良いのです。

また、お互いが相手の声を聞き、相手の立場になって考えてみることで、セクハラやデートDVは少しでも減らせると思います。自分のしていることが相手にとってセクハラやデートDVになっていないか、自分がされていることがそうではないかと振り返ってみてください。被害者としてでも加害者としてでも、もし今あなたが困っていて自分では解決できないと思ったら、第三者に相談してほしいです。このパンフレットが、相手も自分も大切にできる社会づくりについて考えるきっかけになると良いと思います。



サークルメンバーでの話し合いの様子